

さみしい

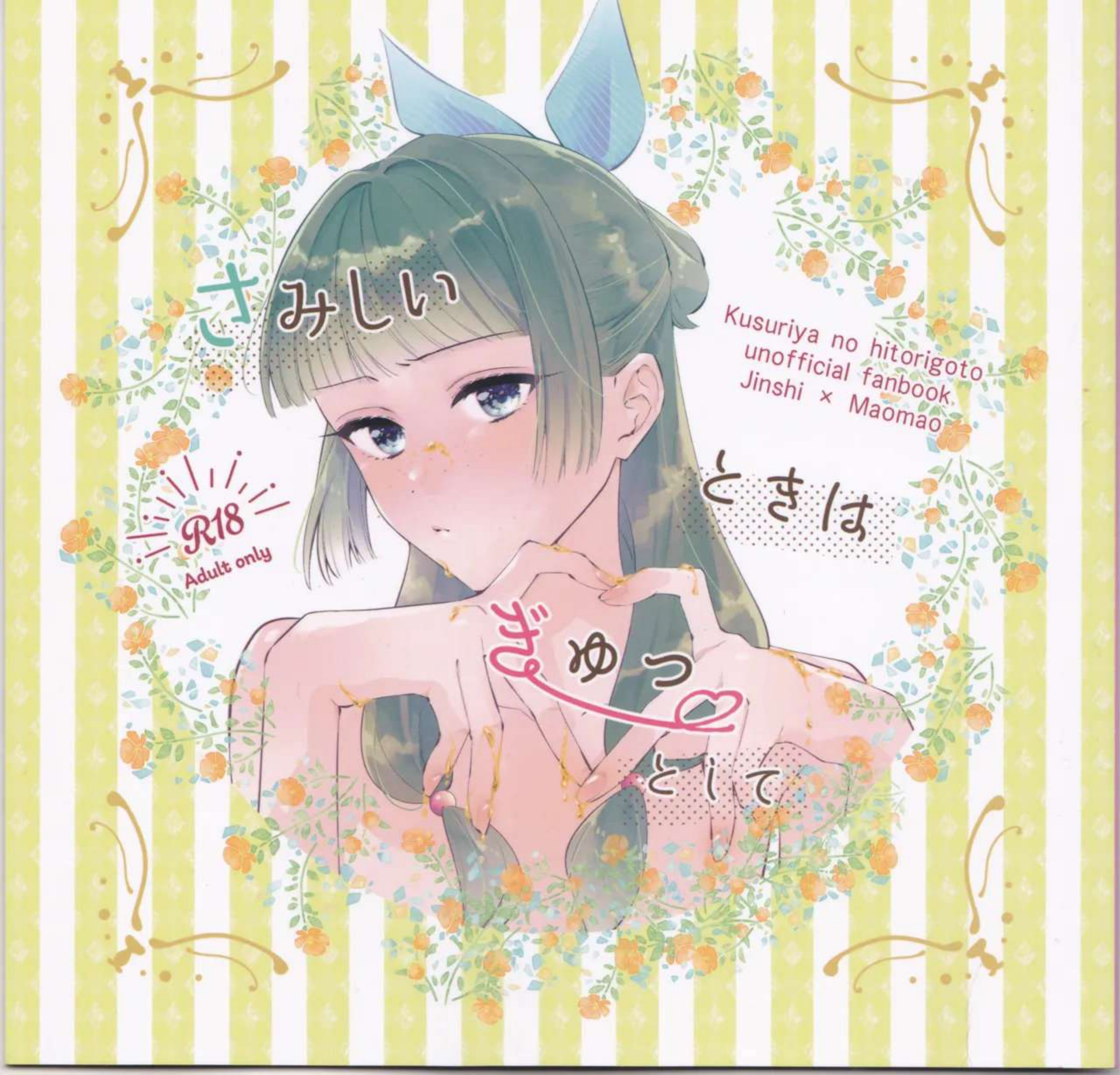
Kusuriya no hitorigoto
unofficial fanbook
Jinshi x Maomao

R18
Adult only

ときは

ぎゅっ♡

して



R18蜂蜜監禁ルート

※このお話は

・結婚アンソロ

・結婚大丈夫？アンソロ

からの続編になりますが、読んでなくても特に問題ないゆるいおふざけえろ本です。

やめてください
王氏さま…っ！

こ…こんなこと…ッ

チ…ッ

妻を緊縛・監禁するなんて
考えてるんですか!?

その手の癖ヘキの教材は
渡した覚えありません!

シリアスになり切れない二人

うるさい!俺だって
お前から以外の
えろ本も読む!!

大体お前が
悪いだろ!

新婚っぽく
生活できたのは
最初だけ

あとはずっと
薬薬薬薬……

だ…だって
それは…

俺とヤブ医者…

どっちが大事
なんだ…ツ!

……日によっては
ヤブ医者かもなあ…

カッ

ギョ



あのですね
壬氏さま…

そりやあ…私も
少しは悪いと
思ってるんですよ

少しは

ただこの時期にしか
取れない薬草とか…
試したい事とかが
ちよつと重なりまして…

そもそも

…こういう女だって
わかってて結婚
したんでしょくに

そんなに私は
だめですか…？

あ…

だ…だめという
わけでは
なくてだな…

※惚れた弱み

よし
もう一押し

じゃあ…

ただそれとは別に

久しぶりだし
シチュエーション
この状況だし

とりあえず
抱きたい

あつこれ
やばいやつ

猫猫

お前が自分の興味に
対して我慢が
できないように

……俺にだって
我慢したくない
ことはある

お前だけだ

お前だけは

諦めることが
できない

じん……っ



中和させよう

甘いもので



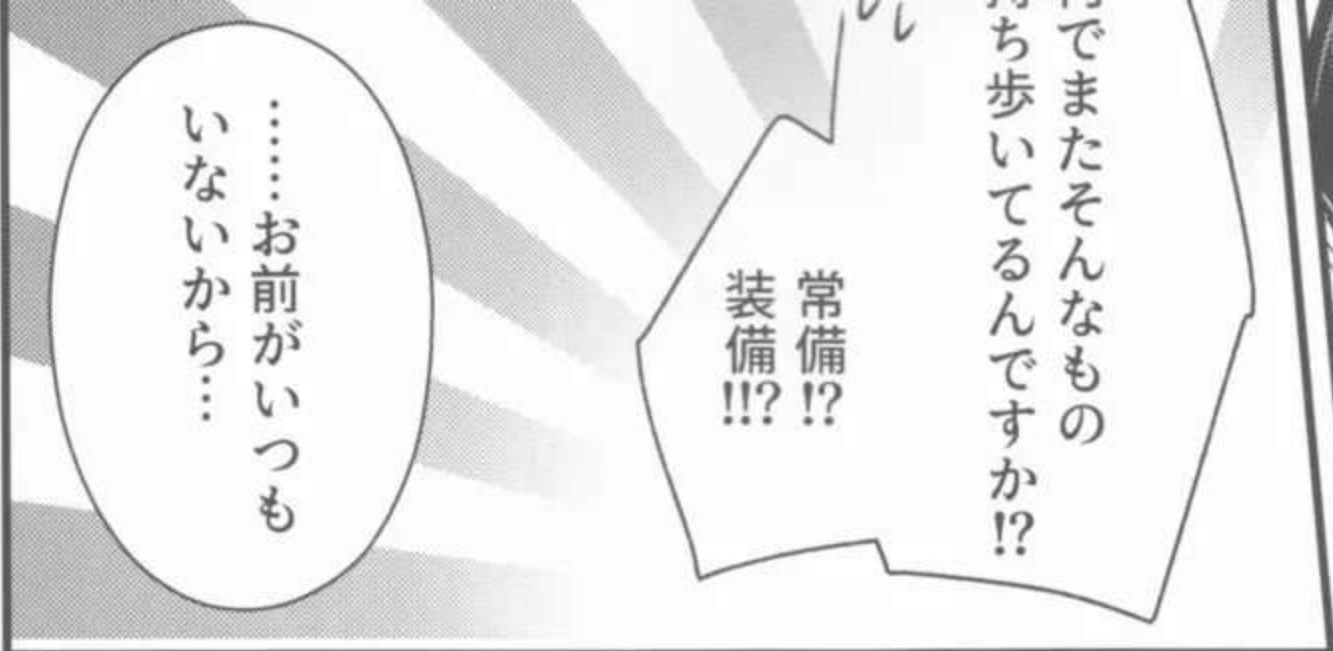
おなじみ

そ…っ、
それは蜂蜜!?

でまたそんなもの
持ち歩いてるんですか!?

常備!?
装備!?

……お前がいつも
いないから……



こうして蜂蜜を
持ち歩いて……

これを嫌がった
昔のお前を
思い出して
浸っていた

可愛かったな……



旦那の
特殊性癖が
全開過ぎる

記憶の
改ざんも
酷い

……お前の



好きなことに
没頭する姿も
愛しく思うが

…その興味の
ほんの少しで
いいから

俺にも目を向けて
くれないものかと

欲が出るな

……っ

壬氏さま……

わ…私…っ

あっ♡

……っ、興味が…

ないわけでは

なくて……



ただあなた…

の…

(はあ)

めっ!んっ♡

~~~~  
ツツ!

私しか抱いたこと  
ないくせに…っ



白鈴姐ちゃん  
みたいな  
妻さはなくても

私だって…

やだ…



何でこんな

上手くなってるん  
だよ…っ!

……女にだって

性欲がない  
わけじゃない



こっ、  
こんなのに  
慣れたら

嫌がる顔が  
好きとか

変態…

この先あなたに

どんな顔して  
抱かれてれば  
いいんですか…？

この男の

綺麗な顔をして  
実際は

粘着質で  
変態なところとか

…弱くて脆くて

構ってあげないと  
すぐ拗ねる  
子どもっぽいところも



私以外に

誰が受け止め  
られるんだ

嫌じゃなく  
なったんだから

もうそんな顔  
できません…

は……

蜂蜜プレイが

嫌いじゃない…  
ということ…か…!?

普通に抱いて  
くださいって  
言ってますよー!



ほら

……久しぶりなのに

蜂蜜ばかりで  
いいんですか？

おま

……そうだな

素材の味を

そのまま頂こうか

ぞわっ

やっぱりいちいち  
変態だなこいつ……

しかし……

また狭く…  
元に戻ってないか  
お前？

……あのですね

そもそも

体格差とか  
もっと考慮して  
ほしいんですよ！

あなた自分のが  
デカイ自覚  
ありますか!?

こんな毎日  
いれてたら身体  
壊れちゃいます！

……もっど

頻度とか  
考えてくれたら

私だって……









時に暴走する亭主を  
何とか乗りこなしつつ

私は

この扉を  
開けた方が  
いいのだろうか…？

周囲の協力も  
得ながら

食事とかどうする  
つもりなんだ…

どうにかこうにか

ふたりはしあわせに  
暮らしました

あ…

高順様に…  
蜂蜜取り寄せ…

やめてもらおう…

おしまい

## あとがき

私の不手際が凄すぎてイベントに特殊装丁本の方が間に合いませんでした。  
こちらは表紙が特殊加工無しの【通常版】となります。すみません…。  
なんかやっぱり漫画描く以外全部むずかしいな！  
同人活動してる人ってすごいな！ってなりました。いや漫画も難しいけども。

次こそは次こそは……って思いつつつもドタバタしてます。  
この本は略して【詐欺本】になるようタイトルを決めたんですが、  
詐欺の前に不備。かなしい。

これからもえっちそうで全然えっちじゃなくて  
不備だらけの詐欺本ばかり出します。ご了承ください。

この本は原作者様・出版者様および  
実在の人物・団体などとは一切関係ない二次創作です。  
オークションやフリマアプリなどへの出品、  
Web上に画像をアップロードするなどの無断転載行為、  
無断使用、AI学習すべて禁止です。  
上記を破った方の尻の穴が無限に広がり続ければよいなと思います。  
不要になった場合は、人目につかないよう処分をお願いいたします。

《さみしいときはぎゅっとして》  
カリカリペーコン/しお 2024.12  
Mail: karikari.solt@gmail.com  
X(Twitter): uduki\_sio2  
Pixiv: 329920  
bluesky: udukisio2  
印刷: 栄光 様



優しさしか  
求めてない  
マシュマロ



湖のほとりで暮らす蛙の壬氏さまはいつもひとりぼっち。  
ニホンアマガエルの中でも珍しい、白色の肌を持つ蛙は  
仲間たちに気味悪がられ嫌われていた。

「美しすぎるのも、罪なものだな」

自己肯定感千ヨモランマの蛙は意にも介さない。

そんなある日、湖に足を怪我した一人の少女が訪れる。  
蛙は少女に駆け寄り、傷口を見て心配そうに話しかけた。

「可哀想に…そうだ、蜂蜜で中和しよう！」

「俺の身体からはいつでも甘い蜜が出るんだ<sup>⑤</sup>」

そう言い放った瞬間、蛙の下半身は急激に黒く光り出し、  
体表からはおっとりとした分泌物が……。

「これ、毒です！」

少女のとっさの叫びもむなしく、物語は唐突なR18仕様に  
加速していく——…！！

(※これはいつもの嘘あらすじ)